

## 第 1 回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事録

開催日時・場所	<p>日時：令和 5 年 9 月 8 日（金）10:00～12:00</p> <p>場所：飯南町役場本庁舎 2 階大会議</p>
議 事 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 町長あいさつ</li> <li>3. 委員紹介</li> <li>4. 委員長・副委員長選任</li> <li>5. 議 事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)総合振興計画・総合戦略の策定について</li> <li>(2)計画策定スケジュールについて</li> <li>(3)町民意見集約のための各種調査の実施概要                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・町民アンケート調査</li> <li>・中高生アンケート調査</li> <li>・若者 Well-being アンケート調査</li> <li>・キーパーソンヒアリング調査</li> <li>・町民ワークショップ</li> </ul> </li> <li>(4)飯南町の現状（人口・産業・財政）</li> </ol> </li> <li>6. 意見交換             <p style="margin-left: 20px;">新たな総合振興計画・総合戦略策定に際して大切な視点</p> </li> </ol>
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事次第</li> <li>・飯南町総合振興計画等策定委員会 委員名簿</li> <li>・資料 1：総合振興計画について</li> <li>・資料 2：第 3 次飯南町総合振興計画 策定スケジュール</li> <li>・資料 3：町民意見集約のための各種調査の実施概要</li> <li>・資料 4：飯南町の現状</li> </ul>



委員会の様子

【出席者名簿】

順不同 ◎委員長、○副委員長

番号	所属団体組織等		委員	備考
1	飯南町自治区長連絡会	会長	石橋 洋司	◎
2	飯南町社会福祉協議会	地域福祉課長	吾郷 由美子	
3	飯南町商工会	事務局長	加津山 幸登	
4	飯南町農業委員会	会長	今岡 和登	
5	飯南町 PTA 連合会	会長	三上 昭彦	
6	山陰合同銀行	赤名出張所所長	徳永 光子	○
7	山陰中央新報社	論説委員会副委員長	万代 剛	
8	島根県中山間地域研究センター	主任研究員	東 良太	
9	島根県情報システム推進課	CIO 補佐官	林 正知	
10	住民委員		大嶋 孝子	
11	住民委員		影山 和典	
12	住民委員		芥川 優子	
事務局	まちづくり推進課	課長	藤原 清伸	
		課長補佐	関島 哲郎	
		主幹	岡田 祐也	
		主幹	森山 雄三	
	(株)コスモブレイン (業務委託業者)	技術部 部長	大内 智弘	
		技術部計画課 計画第2課長	實重 彩香	
		技術部計画課 技術員	上代 美帆	

## 【議事録】

### 1. 開 会

### 2. 委員会委員の委嘱書交付

(委嘱書の交付、委員の紹介)

### 3. 町長あいさつ

塚原町長	<p>今年の夏は（観測史上）最も暑い夏となった。</p> <p>まさに異常気象といわれ、猛暑日といわれる 35 度以上の観測日も過去最高であったと聞いている。このように脱炭素の取組を地球規模で取り組んでいく必要があり、今までの経済目線だけではなく立ち止まって考える時期が来ている。</p> <p>飯南町として合併して 17 年、総合計画は第 1 次、第 2 次の計画を推進してきた。「小さな町からの生命地域宣言」として、源流のまちとしての誇りや豊かな自然、人の優しさ営みなどを大切にしていくという基本理念がある。</p> <p>第 2 次計画策定当初は、10 年後もみんな笑顔で暮らし続けることができるように、将来にむけての思いがあったと思う。</p> <p>皆さま方をお願いするのは、令和 7 年から 10 年間の第 3 次計画であり、これから 1 年半かけて検討して欲しい。</p> <p>人口減少・少子化対策が一番の課題である。現在の人口 4,500 人、高齢化率 46%、出生数が年間 25 人/年、目標 30 人/年に届いていない。</p> <p>自然減として依然として続いているが、飯南町は教育と定住に非常に力を入れてきた。教育では小中高一貫教育に取り組み、町内唯一の県立高校である飯南高校を何とか残していこうと 10 年以上前から魅力化事業に取り組んでいる。町内の生徒数が減っても、町外・県外からの生徒確保でなんとか生徒数を維持できている。</p> <p>また、教育環境のあり方では、生徒数が減っていくなか廃合も含めて議論しているところである。そのような議論も含め、子育てしやすい環境に力を入れ、ここに住んでいただく流れをしっかりと作っていきたい。この流れができれば、まだまだ学校は維持できるのではないかと考えている。</p> <p>定住については、いろいろな施策に取り組んできたが、子どものいる世帯の住宅整備などに取り組み、定住窓口を通じて定住される方が年間 40 人いる。</p> <p>現在の総合計画のなかでは年間プラス 5 人をめざしているが、それでもまだ届いていない。まだまだ定住についても、取り組んでいくべきことがある。</p> <p>これまで取り組んできたことについては、改めて皆様にご報告したい。今の現況も説明しながら、令和 7 年度からの第 3 次計画についても計画していきたい。</p> <p>私の任期は令和 7 年の 1 月までだが、行政は継続するので任期中にしっかりとした計画策定をしたい。</p>
------	--

	<p>各団体の代表である委員や町民の皆さま方から貴重なご意見を頂戴し、この第3次計画を夢のある将来の飯南町を存続するための計画として期待している。そのような計画によって、素晴らしいまちづくりを展開していきたい。</p> <p>皆さまにお力添えを頂きますようお願いいたします。</p>
--	---

(委員からひとこと)

石橋委員	<p>私は、長谷自治会であり、自治区長連絡会会長をしている。</p> <p>一生懸命させていただく。</p>
吾郷委員	<p>いただいた資料のうち、策定にむけた基本的な考え方として、「ともに考えともに創る計画」とあり、あらゆる立場の皆さまを巻き込んで作るということで、アンケート、ヒアリングとかワークショップなど、広範囲にあたって色々な方を巻き込んでいくという考え方が凄く良いことだと思っている。</p> <p>評価委員にも参加しているので、その時の皆さまのご意見が少しでも反映されるように、お手伝いできればと思っている。</p>
加津山委員	<p>商工会の事務局長を務めて3年になるが、その間コロナ禍により事業者の皆さんには非常に苦しい状況が続き、町からは様々な施策を出して頂いた。</p> <p>将来にわたって持続可能な地域社会をめざすためには、生活インフラとしての商工を構築することは大事な位置づけだと思っている。</p> <p>また、自身は大変な僻地に住んでいるため、そのような視点でお話しさせていただければと思う。</p>
今岡委員	<p>今回初めて委員を務める。農業関係では、5期ほど農業委員をしている。</p> <p>委員のメンバーのなかでは私が一番年上。こうして参加させてもらっているのは、高齢者代表という意味合いもあるのではないかと思う。皆さまの意見を聞きながら、色々と意見を出していきたい。</p>
三上委員	<p>飯南町の教育環境の検討委員会も同時に行われている。子どもの減少は、本当に深刻で、学校の統廃合も話し合いがなされている。</p> <p>これから育っていく子ども達の教育環境も含めて、この総合計画がどの様なものになっていくかということが、PTAとして関心事である。</p> <p>子ども達のために出来ることがあれば、積極的にお話ししていきたい。</p>
徳永委員	<p>2016年の第2次総合振興計画の策定時から、検討に参加している。いつも活発な意見交換を聞いて、少しでも飯南町がよくなるようにと思っている。</p>
万代委員	<p>平成7年飯南町の人口が7千人くらいのときに社会人になった。当時は県内59市町村あり、赤来町・頓原町は中でも好きなまちの一つである。</p> <p>中山間地研究センターがあり、取材でも沢山かかわった。抽象的ではあるが、笑顔や豊かさがあり、人口は確かに減少し色々な課題はあると思うが、車から見る景色は当時と変わっていない。地域を知っている皆さんの意見に勝るものはないが、ファンとして一言付け加えられたらと思う。</p>
東委員	<p>中山間地域研究センターには8年勤務している。三次市から毎日通っている。</p> <p>先日、8月に来島の盆踊り大会があった。子ども達が沢山帰ってきており、町</p>

	<p>の出身者や観光の方も来ていた。とても賑やかでいい感じだった。</p> <p>私自身は、出身者との連携や関係人口などを研究しているが、この総合計画でも、住民や事業者もちろん大事だが、出身者や関係人口など住んでいない方も巻き込んでいけるような計画のお手伝いをさせて欲しい。</p>
林委員	<p>私は、普段島根県のシステムや市町村のシステムなどのお話をさせていただいている。これから総合振興計画を策定していく中で、国が進めようとしているデジタル改革、DXを活用してよりよいまちづくりをしていくことが重要だと思っている。</p> <p>学校ではギガスクールが進められるなど、子ども達はデジタルネイティブとなっている。子どもたちの未来や皆さんの暮らしへの活用など、デジタル活用についてアドバイスができればと思っている。</p>
大嶋委員	<p>幼い頃に、父の転勤に伴い赤来町を離れて、この度90歳の母の介護のために飯南町に戻ってきた。町外に出ている間も飯南町を活かす取組をされてることが、非常に嬉しく、それを応援してきた。</p> <p>尾道松江線の開通に伴うバス路線の廃線など残念なこともあったが、それをフォローする皆さまの取組、飯南町の自然の美しさを活かす取組が時代にあっていると思う。外からの目線も含めて、よりよい飯南町をめざして、お話しできればと思う。</p>
影山委員	<p>次世代の子どもたちのために今やらなくてはならないことを、責任をもってやっていきたいと思い様々な会に出ている。子ども3人のうち、長男にだけ近くに住みなさいということなかなか言えない時代である。次の世代の子ども達に出来ることを考えていくことで、子ども達が自ら進んで、自分たちの育った町に将来帰ってきたいと思えるようなまちづくりに協力できればと思う。</p>
芥川委員	<p>私は、頓原にある建設会社に勤めている。飯南町の建設業で仕事をしている立場でありながら、子育て真っ最中である。平成22年にUターンで戻ってきた。</p> <p>飯南町は、子育てのしやすい町だと感じている。行政や地域の皆さまに、育てられているという実感を持っている。その様な経験から、計画策定のお力添えをできればと思っている。</p>

#### 4. 委員長及び副委員長選出

委員長に飯南町自治区長連絡会 会長 石橋 洋司氏を選出

副委員長に山陰合同銀行 赤名出張所 所長 徳永 光子氏を選出

(委員長及び副委員長就任のあいさつ)

## 5. 議事

### (1)総合振興計画・総合戦略の策定について

(事務局説明記録省略)	
石橋委員長	この策定委員会で作るのは、基本構想と前期基本計画か。
事務局	その通りです。
林委員	振興計画の目標のうち、達成できなかった目標について、なぜ達成できなかったのか分析をしなければ次につながらない。その様な評価を今後していくのか。今後の策定委員会で資料がでてくるのか。
事務局	現在の計画の状況について、分析・評価をし、計画策定に活かしていく。

### (2)計画策定スケジュールについて

(事務局説明記録省略)	
石橋委員長	なるべく全ての委員が出席された状態で開催したい。できれば具体的な日にちを事前に決めていただくか、次回の策定委員会の日時を知らせていただくと、皆さん予定を立てやすいと思う。可能であれば対応をお願いしたい。
事務局	第2回目以降は開催が頻繁になるので、日程を決めるか調整したうえで策定委員会を開催する。

### (3)町民意見集約のための各種調査の実施概要

(事務局説明記録省略)	
各種調査の実施概要について	
三上委員	<p>アンケートや町民ワークショップなどとてもよいと思うが、毎年40人弱のIターンの方が飯南町を選択して来ていることについて、飯南町の魅力や子育てしたいといった(ニーズが)明確であるため、移住されたのではないかと思う。その様な人たちが、魅力に感じているものを集約して今後の計画に活かしていくことで、長い間住んでいる人達にとって、気づかなかった価値が浮き彫りになり、(施策の)重点項目が分かるのではないかと思う。</p> <p>アンケートができないとしても、Iターンの方を集めて意見を出してもらうことで、飯南町の魅力や残念なところを計画に盛り込んでいくといいのではないかと思う。</p> <p>アンケートやワークショップにUIターンの方の独自の意見を取ると面白いのではないだろうか。</p>
事務局	ワークショップの参加者を直接依頼するときに声をかけたり、ヒアリングに協力して頂いたりなど、意見を集約できるように工夫していきたい。

アンケート調査について	
影山委員	先日、区長会のなかで町民アンケートの話があったと聞いている。 今回の総合振興計画のアンケートのことか。
事務局	脱炭素計画のアンケートで、今回のアンケートとは別のものになる。
影山委員	町民アンケートは、1500件配布されるとのことだが、紙で配布されるのか。 例えばWEBでの回答方法も準備するなど、回収率を上げるには、色々な回答法を採用した方がよいと思う。
事務局	現時点では、紙での配布・回収を予定している。高校生のアンケートは、要望があったのでタブレットで回答できるよう検討している。 町民アンケートでも慣れている方はWEBでの回答ができると思う。QRコードを作成・配布するなど工夫していきたい。
影山委員	紙の調査票だと、記入するために持ち歩かなくてはならないなどするが、WEBで回答できると便利なので、回収率も上がると思う。 実施が可能であれば、検討して欲しい。
その他	
東委員	移住してこられた方が、どの様なところに惹かれたかは、町民の方が知らない視点を探る上でも大事な視点。もう一つの視点として、なぜ帰って来ないのかという点もあわせて考える必要がある。飯南町と中山間地域研究センターで共同調査をした。出身者の方と関係人口の580人から回答を頂いている。仕事や結婚、子どもなど、様々な事情で帰って来れない人の声を集めた。参考資料として、そのような調査結果を共有させて頂いて、結果をふまえていただくと両面的な検討ができるのではないかと思います。
事務局	ありがとうございます。アンケート調査の結果をあわせて、比較できるように整理したい。資料提供をよろしく申し上げます。

#### (4) 飯南町の現状（人口・産業・財政）

（事務局説明記録省略）

万代委員	資料4 p.3 (4) 飯南町の財政状況の令和3年度実質単年度収支が23.1億円となっているが、2.3億円のまちがいでないか。
事務局	間違えておりました。訂正いたします。
石橋委員長	現状を正しく抑えたうえで、計画を作ることは大切だと思う。ただ、現状をどのように解釈するのかは、とても大事なことなので、きちんと（論点を）管理して、細かく議論していく必要がある。

## 6. 意見交換

吾郷委員	私は飯南町で生まれ、一度都会に出て帰ってきて結婚した。都会の良さも知っているが、ずっと飯南町にいる方よりは、飯南町の良さを噛みしめていると思う。
------	--

	<p>いつも思うのだが、飯南町には様々なことに秀でた素晴らしい方が沢山いるといつも感じている。</p> <p>ここで育った人たちが帰って来れるような計画に結び付けたいし、三上さんが言っておられたように、町外から来た人が感じている良いところも取り入れながら、住んでいる人はもちろん、帰ってくる人も、関係する方も幸せを感じ、好きになっていただけるような計画を作っていければと思う。</p>
加津山委員	<p>どこの市町でも人口の社会増をめざして取り組んでいる。飯南町でも人口対策が大前提だと思う。こうして人口が減っていくことで、(地域経済の体力も)だんだんと減っていく。地域全体の購買力も減り、事業者の売り上げが減ってくると、事業者も減ってくることが想定できる。</p> <p>飯南町のなかで色々なことが完結できる、地域消費が循環できる姿が、どの様にしたらできるのかという視点を計画のなかで検討できればと思っている。</p>
今岡委員	<p>デジタル化する中で、残されたアナログ人間はどうしたらよいか。人口の半分は高齢者だが、そのような人たちをどのようにサポートするのかといった視点も必要だと思う。</p> <p>もう一点、飯南町は荒廃農地が比較的少ないのは、集落営農や認定農家が農地を守っているからである。都会に出た息子や娘が帰って来ない中で、家も山もいらないという方がでてきている。今の時代農地を買う人もいない。</p> <p>都会に出ていると田舎の家を持っていることでお金がかかる。</p> <p>Uターンで帰ってきてても、すぐに農業ができるわけではない。今後農地をどのようにしていくのか、農業委員会でも話が出ている。Iターンの方は、米ではなくパプリカを作る。Iターンや帰って来られる方を農業に入ってもらえるように、計画に盛り込んでいただければと思う。</p>
三上委員	<p>飯南町の財政状況の説明で、飯南町が堅実な政策をとってきたということがよく分かった。その中でも毎年40人前後の移住があるのも、とても効果的な政策を進めてきたのだろうと思う。</p> <p>言い換えると、資力の範囲でやれることをやって成果を上げてきたが、人口は減っていく状況は明らか。人口増加を視野に入れた大胆な施策をこれからの10年で取り組まれると、財政がマイナスであっても人口増加のという成果があれば、財政のマイナスも納得できるのではないかと思う。それが税収にもつながるし、商業や町内で買物する人も増えていくことに直結している。</p> <p>大胆な財政出動をして、流入を招き入れるような政策を考えていくのも必要ではないかと思う。</p>
芥川委員	<p>建設業は、飯南町を支える産業として自負していたが、(資料を見て)影響を改めて認識した。しかし、会社としては高齢者の力に支えられている部分が大きく、あと何年事業が継続できるかが懸案事項となっている。人口減少にともない若者が就労しないことが一番大きな課題だと思う。町内の産業の担い手が高齢者だということを現実として受け止めなければならない。</p> <p>子ども達は、地域教育を通じて飯南町の良いところを、とても学んできている。</p>



	<p>一度は都会に出て、戻ってくるのが理想だが、強制力はないと親の立場から思う。帰って来られるような魅力のあるまちにしていくことが一番大事であり、今回色々な施策が立てられればよいと思う。</p>
影山委員	<p>資料 4 に地区別人口の増減率が示してあるが、来島地区の減少率がマイナス 15% という数字を見て、地区に帰って色々な人に相談しながら考えていかなくてはと思った。</p> <p>人口減少が目に見えて進んでいく中で、目指すところは横ばい、なるべく減らさないように努力していくことだと思う。農業をはじめとする産業、地域の伝統文化、そういった魅力が沢山あることも含めながら、色々と検討していければよいと思う。</p>
大嶋委員	<p>私は旧商店街に住んでいる。空き家が増え、商店もなくなっている。</p> <p>松江に住んでいたが、バスで帰るたびに景観がきれいだと感じている。</p> <p>町が一体として、同じコンセプトを持って季節に応じた楽しみ方や良さをアピールできるのではないかな。</p>
林委員	<p>全国的には 2040 年問題がクローズアップされている。高齢人口がピークになり、それを支える若者がとても少なくなるタイミングである。その様な問題に日本は直面している。行政でも民間でもサービスの質は落とせない中で、デジタルの力を活用していかなければならない。それが非常に重要になると思っている。</p> <p>デジタルを取り込む飯南町の基盤とデジタルを使いこなせる人材をどちらも揃えておかないと、IT 企業が入ってきても、結局活用できない。</p> <p>そのようなところを今後 10 年間で見直す必要がある。</p> <p>先ほど、今岡さんが言っておられたように、高齢の方の IT の使い方も需要にあると思う。国の進めるデジタル田園都市国家構想は「誰一人取り残さない」という計画。これに基づいて飯南町でも交付金を使いながら、デジタルを活用できる土壌を作っていけば、デジタル社会にあった会社が飯南町にくることで雇用ができたり、地元就職にも繋がると思う。</p> <p>80 や 90 歳位のお爺ちゃん、お祖母ちゃんがデジタルを使いこなしていたら、「飯南町カッコいいな」と思うので、そのような事も含めて何かできればと思う。</p>
東委員	<p>これからは数ではなく質で勝負していく時代。</p> <p>5 年前に谷地区で各世帯に家系図を書いてもらう調査をした。谷の人口は 200 人くらいだが、1 時間圏内で帰って来れる範囲に同じくらいの人数の子どもたちがいた。中身を見ると近くにいるけど何もしない息子がいたり、遠くにいるけど両親が心配で毎日電話する息子もいる。距離だけではなく親密度や家族の関係、地域への思いは、数では見ることができない。</p> <p>飯南町の出身者会が解散しているところがあるなど、心配な面はある。次の世代をまたぐのではなく、今のうちから繋がりをしっかりしておく必要があると感じている。出ていく子供たち、飯南町のファンもターゲットだが、町内に人が居続けてもらうことが絶対的に必要。ターゲットを絞りながら、具体的な顔を想い浮かべながら考えていけるとよいと感じている。</p>

万代委員	<p>この地域で生きて来た人、定住を受け入れる人が笑顔でいることがとても大事で、総合計画のなかでは見えているのに、(町からの)手紙では硬い文章になってしまっは、読んだ人に選んでもらえないのでは。</p> <p>もう一つ、今年の春話題になった、福井県の池田町の池田暮らしの7か条がある。統計をとったわけではないが、意外と地域活動を一生懸命やっている人ほど、あの考えに賛同されている。</p> <p>飯南町の皆さんの感覚ではどの様に感じているのか、議論のどこかでお話をお伺いできればと思う。</p>
徳永副委員長	<p>金融機関の観点から見て、産業がないところに子どもが帰ってきたことはない。幸いなことに、(飯南町では)事業継承される事業所がほとんど若い方に代替わりされたようなので、一般的にいわれているような心配はない。</p> <p>逆に先ほど委員意見でもあったように、就労者が確保できないことが事業継続のうえで、大問題になっている。</p> <p>産業構造も建設業などの業種が偏りすぎているところが弱いと思っている。新しい産業をつくるのが難しいことも良く分かっている。そのあたりの議論ができるか分からないが、農業にしても儲けられる農業の仕組みなどを、少し話し合いができたらいと思う。</p> <p>今岡さんが“デジタルについていけない話”をされたが、金融各社でデジタル化を進めている関係で、高齢者がデジタルを活用して買物をしているところを見るが、飯南町の高齢者の方は全然レベルが高いと思われる。(デジタル化への)先入観を払拭するような話もできたらよいと思った。</p>
石橋委員長	<p>私は、長谷集落の田んぼ約25ヘクタールの8・9割集積して集落営農をしている。法人組織の形では15年、その前の集落営農の任意組織では10年、四半世紀営農をしている。</p> <p>先ほど今岡さんが言われた話は身に染みるような話。高齢化が進み、作業に出る人は少なくなる、田んぼはいらない、不在地主がでてくるなど、切羽詰まった状況があるが、それは仕方がない。それをどうして行くのか、制度的に何か考えなければならないということを肌身で感じている。</p> <p>この会の委員長をするにあたり、本当にいい計画とは何かということを考えた。皆さんいい計画とはどんな計画だと思うか。私が思っているいい計画と皆さんの思っているいい計画とは、微妙に違うところがあると思う。</p> <p>この委員会のなかで、皆さんそれぞれが令和7年から10年間のいいまちづくりをしよう、いい計画を作ろうと集まって頂いていると思う。</p> <p>きちんと皆さんから意見を出していただいて、反論すべきところは反論しあって、議論を重ねて、最終的にいい計画ができればと思う。</p> <p>少し時間が長くなったが、今後は限れた時間のなかでも集中的に議論をしていきたい。よろしくお願いします。</p>